



体験教育

編集／体験教育編集委員会
 発行／学校法人 明星学苑
 東京都府中市栄町一丁目
 〇四二二六八五二二
 制作／信濃印刷株式会社

目次

幼稚園

豊かな遊びや体験を通して

年少組

年中組

年長組

4 3 2 2

小学校

一年生はじめてがいっぱい

二年生「静」と「動」を大切に！

三年生 理科との出会い／社会との出会い／

友だちとの出会い

四年生 水道キャラバン

五年生 くぬぎの時間

六年生 入学式／対称な図形作品展

明星学苑創立百周年記念 運動会

8 7 7 6 6 5 5

中学・高等学校

一貫一年「良い体験」

中高一貫一学年主任 別府 和哉

全力体験・全力読書

中高一貫二学年主任 佐藤 育義

一貫一期生として

中高一貫三学年主任 佐藤 誠司

100年目の体験教育への挑戦

高校一年本科 学年主任 八幡 幸司

総合の時間を通しての成長

高校二年本科 学年主任 一之瀬 繁

総合の時間を通しての成長

高校三年本科 学年主任 中林 孝光

MG Sの取り組み

高校MG S 学年主任 高木 保欣

14 13 13 11 11 10 9

豊かな遊びや
体験を通して

新年度が始まり、新しいクラス、新しい友だちとの生活が始まりました。年少組のお友だちは初めての園生活です。入園式翌日から保護者の方との涙のお別れを経験し、少しずつお友だちや担任と一緒に好きな遊びを見つめながら新しい生活の第一歩を踏み出しています。ようやく新型コロナウイルスが落ち着き、異年齢との交流活動も徐々に再開し、五月には年長組のお兄さん・お姉さんが制服の着脱や帰り支度などをお手伝いしてくれました。お兄さん・お姉さんを憧れの眼差しで見つめる年少組と、小さなお友だちの目線に立って優しく声をかけてくれる年長組。優しさに触れながら、他者との関わり合いも学んでいます。

明星幼稚園では一人ひとりが日々の園生活を楽しく過ごし、その中で好奇心を育み、自分の「好き」をたくさん見つけられるよう、新たな気持ちや発見を促す「めばえの時間」の三つの柱として【伝える力を養う】「コトバ」体験【科学の心を養う】なせだろう体験【豊かな感性を養う】創造力体験を軸にカリキュラムを設定しています。

また、年長組は就学前のアプローチ

年少組



おおむしが綺麗なアゲハ蝶になりました!



アゲハ蝶の卵に興味津々!

みんなでプール遊び(正課 運動あそび)

上手に入られるかな?(正課 運動あそび)



葉っぱはどんな形かな?(さつまいも苗植え)



年長組のお兄さんお姉さんが着替えのお手伝いにごてくれました



チカリキュラムとして、小学校の学びにつながる体験活動「のびのびタイム」を定期的に設定し、遊びの中で数や図形に触れ、様々な事柄に好奇心を持って取り組む姿勢を育てながら、スムーズな就学へのステップを踏めるようサポートしています。

三年間の園生活で、様々な事に興味・関心を持ち、自分の考えや感じた事を素直に表現でき、さらなる探究心が芽生える環境を整え、明星幼稚園の教育目標である「多様性を認め、未来を切りひらく子の育成」につなげていきます。

お外でなかよくお弁当を食べました「美味しいね！」



「美味しくな〜れ！」とまぜまぜ。(梅ジュース作り)



年中組



「おいしいお米になるのかな？」(パケツ稲の苗植え)



運動会に向け、パラパラの練習!!「みんなで力を合わせよう！」



「ゴールまで渡るかな？」(正課 運動あそび)



図鑑を開いて虫の観察をしています「どうやって育てるのかな？」

年長組



めばえの時間
“のびのびタイム” 育て
ている野菜を知ろう!



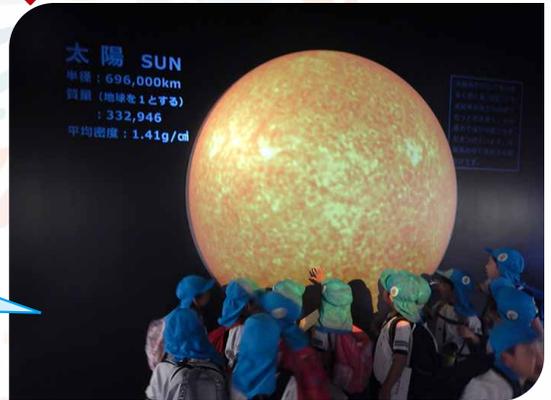
めばえの時間“のびのびタイム”
“写真でピンゴ” プログラミング
体験 (ICT教育)



めばえの時間
“わくわくパレット” 描い
た後の鑑賞会も楽しいよ!



たくさんの
惑星を見たよ!
(プラネタリウム遠足)



走り方、パトンの渡し方
を教えてくださいました。
(正課 運動あそび)



学苑内の自然の中で
たくさんの発見をしたよ!



ドキドキ、ワクワクと、期待に胸を膨らませ、四月から入学してきた一年生。学校生活に少しずつ慣れていくためにも、さまざまなことを体験してきました。



やさしい六年生と手をつないで入学式



安心・安全を学ぶ



京王バスの方、府中警察署の方にご来校いただき、「バスマナー教室」と「交通安全教室」を開校していただきました。

実際のバスや信号機を使い体験しながら学ぶことで、自分自身でルールやマナーを意識し、安全に過ごそうとする気持ちを高めることができました。



元気に育ててね!!

五月に入り、畑での活動が始まりました。「ひまわり」や「さつまいも」の種と苗を観察し、畑に植えました。



大きく育てるためにはどうしたらよいか、自分達で調べながら大切に育てていきたいと思えます。
(文責 一年生)

二年生 「静」と「動」を大切に!

くぬぎの時間に、学校園で夏野菜を育てています。育てたい野菜を決め、ピーマン、キュウリ、トマト、ナス、エダマメなどの苗を植えました。子ども達は、くぬぎの時間を中心に、水やりに行った、雑草抜きをしたり、おいしい野菜ができるように願いを込めてお世話をしています。野菜ができた時のことを各クラスでも話しています。コロナ禍が一段落したことで「みんなで食べることもできるかもしれない」と期待する気持ちも持ち始めている子ども達です。

また、二年生になり、一年生のときよりもいろいろな先生方の授業も受けるようになりました。また少しずつ学習の幅も広がっています。例



えば国語では詩の暗唱を行っています。休み時間に担当の先生のとこるに行き、頑張つて覚えた詩を発表している子ども達も多く見られます。



連休明けには初めてできた明星小学校の後輩である一年生を学苑探検に連れて行ってあげました。「この石碑は何が書いてあるかわかりますか?」と一年生に聞いてあげていた二年生がとても立派でした。「みなさんがこれから何度も歌う歌ですから早く覚えてくださいね」という優しいメッセージも伝えていました。中高の校舎や体育館、校庭など、一年生に優しく教えてあげる姿、案内する姿に二年生としての成長を感じました。休み時間や畑の活動で外へ飛び出していく姿、一年生に対してじっくり、ゆっくり取り組む姿、静と動のめりはりを大切にして、学校生活を送っています。



(文責 二年生)

三年生

三年生は、社会や理科、書写など初めての出会いがあります。今回は子ども達の「初めて」に焦点を当てて紹介します。



【理科の学び】

まずは理科についてです。子ども達は理科の実験が大好きです。先日行った「水とは混ざるのか?」では、水と油を混ぜてみても混ざらないことを学びました。わかっているけれど、実験してみると、(もしかしたら混ざるかもしれない。)と想像してかき混ぜる子がいます。考えるだけでなく、体験を通して自分の考えを確かめる活動も、理科では大切な学習の一つです。混ぜる実験はこれだけでなく、最後に、入歯洗浄剤のように泡があふれる様子を見て子ども達は大喜び。こういう体験を通して、科学に興味を持つ気持ちを少しずつ育んでいきます。

【社会の学び】

次に社会を紹介します。社会では、町の広がりについて学習を行います。明星小学校の周りについて子ども達に尋ねると「家がたくさんある。」「バス停があった。」「コンビニがあったよ。」といった意見が出ました。どれも、自分の身近な景色ばかりです。そこで、「屋上に上がって見てみよう。」と話す目を輝か



【友だちの出会い】

最後の友達との出会いについてです。三年生は、初めてクラス替えを行う学年です。始業式では、多くの子が緊張した面持ちで過ごしていました。ただし毎日授業を行う中で、話し合いを繰り返して、友達と楽しい時間を何度も過ごしていきま



【友だちの出会い】

そんな子ども達の側に寄り添い、一人ひとりの成長を学年では温かく見守っていきたくと思っています。(文責 三年生)

水道キャラバン 四年生

六月八日(木)に、東京都水道局主催の、水道についての出張授業「水道キャラバン」が行われました。社会科の授業で学習している水道資源の働きや浄水場のしくみ、震災対策や環境対策などについて、くわしく教えていただきました。



安全でおいしい水を都内全域に届けるための秘密や水道局職員のはたらきについて、タブレットを使った三六〇度AR映像で学びました。特に、おいをとるための『高度浄水処理』や汚れを固めて沈めるための『凝集沈殿・濾過』実験では、目の前で見るうちに透明でキレイになっていく様子に子ども達は目を輝かせ、大きな歓声が上がりました。



最後に、クイズに答えて「水道キャラバンツアーガイド」に認定された子ども達は、この授業を通して水についてとても興味が持てたようでした。水の大切さやありがたみを学べるよい機会となったのではないのでしょうか。



(文責 四年生)

五年生くぬぎの時間
 「水育」サントリーさん出前授業

五年生は、くぬぎの時間に、(株)サントリーさんにご来校いただき、未来に引き継ぐ水の大切さについて教えていただきました。

一時間目は、担任の先生と事前学習として、楽しいゲームで水の循環を学びました。子ども達自身が水の視点になって、さいころで行き先を決めながら、自然界の七つのスポット「海・川・雲・地下水・わき水・湖・森植物」を旅しました。子ども達は、前のめりになってゲームに取り組み「水が旅をする」ということを実感することができました。また私達の生活は、水循環に大きな影響を与えるということに気づきました。

二時間目は、サントリーの植村さんが、クイズや実験を交えながら授業をしてくださいました。まずは、宿題となっていた「水を大切に作る工夫」の発表です。「皿の油をふき取る」「お風呂の水を洗濯に使う」「環境にやさしい洗剤を使う」などそれぞれのお家の工



夫があり、とても勉強になりました。次は、クイズです。「どちらが水をたくわえることができる森でしょう?」と聞かれ、最初は「木の生い茂った森」の方が水をたくさん貯えることができる、と予想しましたが、実は、「下草の生えた明るい森」の方が水を貯えたり、きれいにしたりするのだそうです。両方の森の土を比較すると、落ち葉などがまざりふかふかしているのが「明るい森の土」です。実験してみると、確かに、ふかふかの土の方が、水がゆっくりゆっくりと染み込みます。「木の生い茂った森の土」は、さらさらしています。水を流すと、土砂崩れのように一気に水と土が流れてしまいました。子ども達は、その違いに驚いていました。

雨となつて森に降った水が何十年もかけて、私達のもとにやってくることを知った子ども達は、水を大切にするために、「ポスターを作りたい」「委員会で呼びかけたい」と自分のできることを具体的に考えることができました。これからの水を守る活動が楽しみです。



(文責 五年生)

六年生

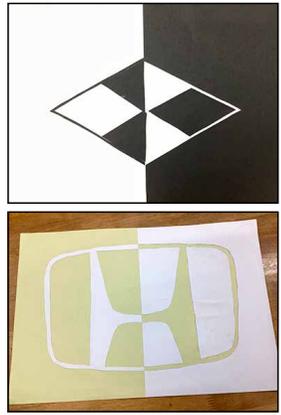
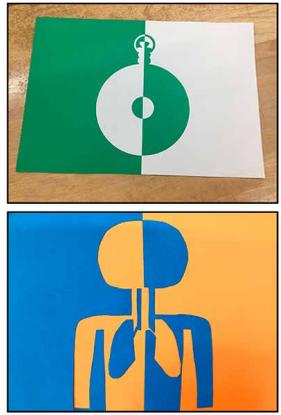
いよいよ最高学年となり、身の引き締まる思いの六年生。これからは自分達のことだけでなく、下級生の手本として、また学校のリーダーとしてできることを考え、行動していきます。

入学式

在校生の代表として出席するだけではなく、一年生の入退場のサポートや小学校校舎までの案内を行いました。一年生と対面する前は、緊張している様子の六年生でしたが、一年生と出会ってからは終始笑顔でエスコートしていました。入学式後も、一年生の教室へ行ってお世話をしています。支度を教えてあげたり、休み時間に遊んであげたり、楽しい時間を過ごしています。一年生の目線に合わせ、優しく声をかける姿に最高学年としての逞しさを感じました。



対称な図形作品展



算数では、「対称な図形」という学習を通して、「線対称」「点対称」という概念を学びます。学習を進めていくうちに、子ども達は生活の中にも「対称な図形」がたくさんあることに気づきました。そこで、身の回りにおける対称な図形をもとに作品づくりを行いました。線対称でもあり、点対称でもある図形に挑戦するなど、それぞれが工夫しながら作品を完成させることができました。

(文責 六年生)

明星学苑創立百周年記念 運動会

五月二十一日(日)に、明星学苑創立百周年記念運動会を行いました。これまで四年間、新型コロナウイルスの影響で、競技の削減や保護者の方の入場人数制限などを行ってききました。しかし、今年度はほぼ元に戻し、従来通りの運動会を実施しました。



一年生は「中玉運び」を行いました。これは、二・三人一組になって中玉を転がしながら運んでいく競技です。本番では、練習の成果を発揮し、どの子も一生懸命、中玉を運んでいました。

二年生は「中玉神輿」を行いました。四・五人で運ぶこの競技は、声をかけあいながら中玉を運びます。どのクラスも練習から一生懸命取り組み、頑張っていました。

三年生は「ダッシュユ玉入れ」を行いました。誰がどこを走るか、どうやって投げるかなど何度も話し合いを繰り返して本番を迎えました。クラス替えをしたばかりの三クラス。どのクラスも協力して取り組んでいました。



五年生は制限時間内に何回長なわ跳び競争」を行いました。回し手のタイミングや跳ぶタイミングなどを考え、練習をしていました。運動会で必死になって跳ぶ姿にクラスのみとまりを感じました。

六年生は「ハリケーン」と「クラス対抗リレー」の二つの競技と演技を行いました。演技は「健康・真面目・努力」というタイトルで、本校がコロナ前から大切にしてきた「組体操」を行いました。本校の体育授業では、友達との相互補助を繰り返しながら、動ける体づくりを目指しています。「健康・真面目・努力」はその集大成といえる演技になっています。



四年生は「機関車リレー」を行いました。ホースを持って四・五人のグループでコーンを周ったり、走ったりします。伸び縮みするホースをどうやって持ち、走るのか三クラスが毎回作戦を立てて練習に取り組んでいました。



六年生は昨年度から、この演技を行うために練習を積み重ねてきました。ただし初めてのころは、四年振りの演技だったため、どのような姿で本番立つのかイメージが湧いていない様子でした。集中できない子、気持ちが入らない子などが数多くいました。それを、担任の先生と一緒に考えながら、練習を積み重ね、気持ちを高めて当日を迎えたという背景がありました。ちなみに、最後に行った学年演技の「インフイニティー」という技は一度も三クラスが成功できなかった技でした。

そして本番。ほとんどの子ども達が技を成功させ、学年の技も成功させることができました。自然と会場は大きな拍手に包まれ、誇らしげな表情を見せる六年生の姿がありました。

今年度の運動会は、大逆転の末、松組の優勝となりました。幕を閉じました。勝敗に一喜一憂しながら全力で取り組むことのできた、心の動く運動会であったと感じました。

保護者の皆様には、お忙しいところご来校いただき、温かいご声援を心から感謝申し上げます。今後とも、子ども達の教育活動へのご理解ご協力をお願いいたします。

(文責 体育科)

一貫一年『良い体験』

中高一貫一学年主任 別府 和哉



TGG

小田原フィールドワークでは、前小田原市長の加藤憲一さんの講演を通じて、なぜSDGsについて皆で考えなくてはいけないのか、ポイントを整理し、小田原市の具体的な取り組みを学びました。また、班別行動では自分たちで考え、ルールを守り、時間を守っての行動ができました。TGGではネイティブの先生との日常会話から、自信の有無・正しいかどうか以上に、積極的に話すことがコミュニケーションでは大切だという気づきがありましたね。学年目標にも掲げているとおり「積極・ポジティブ・チャレンジ」が大切に



チームビルドワークショップ

です。スポーツ大会やチームビルドワークショップではグループやクラスで協力して取り組む難しさ・楽しさを知ることができました。こちらは「相手の立場で考える」ということを体験する機会となりました。さまざまな体験をしますが、大事なのは内容そのものでなく、生徒の皆さん自身の受け止め方です。禅や茶道で用いられる「日々是好日」という言葉があります。「にちにちこれこうじつ」と読みます。「好日」というのは「良い日」という意味であり、つまり「日々毎日」が「良い日」という意味です。

でも「良い日」ではなく「悪い日」もあるような気がしますね。たとえば、寝坊や忘れ物をしてしまったとき、テストの成績が良くなかったとき、親や先生に叱られたとき、友だちとけんかしてしまっただとき。そんなとき「今日はいついてもいい」「今日は運が悪い」と思う人もいます。かもしれません。テストの成績が良くなかったとしても、それを受け止めて反省し、一生懸命に取り組むきっかけになったとしたらどうでしょう？ きつと成績も伸びていき、後から振り返ったとき「あのときはショックだったけれど、そのおかげで本気になって今の自分がある」と思えるはずです。そうなると、そのときは「悪い日」のように思えても、長い目で見れば、自分が成長するきっかけになった「良い日」になります。反対に、たとえテストの成績が良くても、それで油断して天狗になり、勉強をおろそかにするようになって大事な試験で失敗したら、成績が良かった日も「悪い日」になってしまいます。

上の例でも、寝坊をしたのは夜更かしをしたせいだったり、忘れ物をしたのは不注意のせいだったり、テストの成績が良くなかったのは課題や授業にちゃんと取り組んでいなかったせいだったりします。親や先生に叱られるのも冷静に省みれば必ず何か理由があるでしょう。友だちとけんかになる原因も言い過ぎだったり、乱暴な言い方もありません。でも、それらをきっかけに自分自身がいかに良く変わり、成長しているかとするなら、そういった「悪い」ものに見える体験も「良い」体験になります。

体験自体は同じでも、受け止め方次第でこの先に差が生じるのです。つまり、周囲や他人のせいにはせず、いつも「良い体験をした」と考える姿勢自体が大切ということです。学



小田原フィールドワーク



スポーツ大会

全身体験・全力読書

中高一貫二学年主任 佐藤 育義

年齢相応に「幼さ」から脱却していくこと、それが1年生の課題だといっても良いでしょう。一貫1学年では、

このような意味で、「毎日が良い日だ」と言えるような学校生活を皆さんに送ってほしい、と思っています。

私たちが一貫2期生は1期生の先輩たちが開拓した伝統を次の100年へ継承し、新たな文化を造り上げる活動をしています。また、中学・高校の6年間は生徒にとって最も多感な時期であり、捉え方次第で日々の小さな出来事も大きな成長の機会となります。ですから、学校でしか出来ない経験を最大限に与えられるように活動計画を立てています。

それらの活動の一つに「体験学習」があります。一貫生は、様々な体験学習を6年間かけて、じつくりとゆとりを持って行います。これによって生徒の感受性を育み、何事にも果敢に挑戦する精神を身に付けます。いわゆる、「見えない学力」を育成する取り組みを行います。

昨年度を振り返ると、感染症が猛威を振るう危険性を払拭出来ない1年でした。その為、学校生活も多くの我慢の上で成立していました。しかし、この様な状況の中でも、学校と保護者、何より生徒の協力により、実に多くの「体験学習」を実施する

ことが出来ました。具体的には、「5月コース別校外学習」、「6月校外英語学習」、「7月A1プログラム学習」、「9月明星祭学年展示」、「10月体育祭」、「10月校外探究学習」、「10月府中市連携事業への参加」、「11月研修旅行（3泊4日）」、「12月マラソン大会」、「1月合唱コンクール」、「1月コース別校外英語学習」、「2月読書探究活動」、「2月校外探究学習」、



読書



校外学習T

「2月校外一貫プロジェクト」、「2月花と緑の探究プログラム」…。年度当初に計画した全てのプログラムを無事に実施出来ました。御支援頂いた全ての方に感謝致します。そして、2年生となった彼らから成長の断片を感じることが増えてきました。恐らく生徒一人ひとりが、これらの経験をシャワーの様に浴びただけでなく、養分として活かせる様に意識を持って活動した成果であると確信しています。

一方で長年の教育活動を通じて気になることがありました。それは、読書を苦手とする生徒が年々増えていると感じることです。読書に没頭出来ない人は、まるで写真を眺めるかの様に文字を見えています。恐らく文章として頭に入っていません。こ

れに対する危機感もあり、一貫1年次において「読書活動の環境整備」を行いました。

読書の楽しさの一つに、文章から状況を想定し多くの疑似体験に感動することが挙げられます。他にも、読書には活動を通じて得られる、論理的思考力や理解力、推察力、集中力の育成等、素晴らしい副産物があります。また、ある統計によりですと、読書習慣の確立は中学生で完了するそうです。積極的な読書活動は今後の劇的な成長に不可欠な素養ですから、読書の時間を確保することが重要と考えました。何より読書本来の楽しさを味わって欲しいと考え、図書館司書の協力を得て「お試し読書」を実施し、興味を感じる本を学級文庫に配置しました。



校外学習S

読書が出来る人の目標は「年間100冊を読む」です。昨年は生徒3名と教員1名が読破しました。また、今は多くの本が読めなくても、この1年で1冊のお気に入りの本と出会えたら学年で取り組んだ甲斐があります。改めて読書に本気で取り組みます。

一貫二期生として

中高一貫三年主任 佐藤 誠司

で欲しいと願っています。

今年度も引き続き「体験学習」、「読書活動」を行います。意図を理解し、多くの経験を得る為に全力で活動してくれると幸いです。一貫二期生の皆さん。次の100年を作り上げる偉大な先輩となってくださいね！

「NEXT100プロジェクト」の一貫として、2021年に中高一貫コースがスタートしました。一期生として、特選クラスは、「本物を知る、一流に触れる体験」、総合クラスは、「可能性が広がる多様な学びの体験」ができるよう様々なことに取り組んできました。100周年の記念ロゴは、本学年の森雄之介君が1年生の時にデザインしました。まさに「NEXT100プロジェクト」には最適であると感じます。1、2年次は、コロナ禍で活動が制限される中で、職業交流、職業体験、インターリッシュキャンプ、都内外外学習、大相撲観戦をおこないました。特に大相撲観戦では、力士の本気のぶつかり合いに、観ている生徒、教員も感動をしました。3月に行われた研修旅行は、特選クラスは、富山市において「まちづくり」について、



明星大学での講義を受講

総合クラスは、いわき市を中心に「震災学習」を大きなテーマとして学んできました。特に今年度は、一貫3年生に英語クラスを設置し、100周年記念事業として、ニュージーランドへのチーム留学に男女1名ずつを派遣させていただくことになりました。



一貫三年活動の様子



特選クラスのプロジェクト

た。今年の研修旅行は、特選クラスは、北海道浦幌町での農業体験と北海道大学の学生と農業が抱える現状と課題について考えることにしています。総合クラスは、長崎市、長崎大学の学生と一緒に歴史学習、平和学習をおこないます。また、まちづくりがどのようにされているのかを学びます。英語クラスは2月にニュージーランドへ研修旅行にいき、チーム留学の生徒と現地で交流プログラムを行う予定です。一貫コースは、今後も視野を広げ、斬新な活動をし

ていく予定です。「目に見える学力」と「目に見えない学力」の習得に向けて海外研修やテーマを絞った国内研修を予定しています。学んだことを元に最終的には個人論文を作成することを考えています。一貫一期生が、これからの明星を背負ってたつために「世界に貢献する人材の育成」を我々教員団も念頭におき、世界のトレンドに適応し続けるイノベーションな学校を目指し、生徒と共に成長していけるようにしていきたいと思えます。

100年目の体験教育への挑戦

高校一年本科 学年主任 八幡 幸司

100周年の入学生として迎えたこの学年は、今まで本校が取り組ん

できた伝統的教育と、新たな社会や時代に対応する教育との融合をテ



探究合宿の様子



マに「100年目の体験教育への挑戦」というスローガンのもと1学期の教育活動に取り組んできました。本校の教育方針の一つである体験教育をあえて旧字体の「體」として表記する理由は、ただの経験としての体験ではなく、骨(人生)を豊かにする活動としての「體験」をするという意味が込められています。ここではこの1学期に行った高校1年生本科の「體験」を紹介したいと思います。

まず高校1年本科では「総合的な探究の時間」として週2時間の授業があり(現在は水曜日午後の時間が設定されており、学外に出ることも可能な設計になっています)、充実した探究活動に取り組んできました。1学期は「国・府学」というテーマで自分の興味関心を本校の関わり深い地域(国分寺・府中)というフィールドに繋げ、地域学を探究してきました。その過程で6月には富士吉田市に探究合宿として宿泊研修を行いました。この合宿では武蔵野大学アントレプレナーシップ学部(EMC)教授の津吹先生をはじめ、大学生約30名と夜を通してワークショップを実施し、アントレプレナーシップの精神やスキル、また大学生と共に「国・府学」の探究の深堀りを行いました。探究合宿という初めての挑戦でしたが、2日間大いなる刺激と充実感を得た「體験」となりました。更に6月後半では「外に出るWeek」として合宿の成果を繋げ、実際にフィールドに飛び出し(または学校にゲストをお招きして)



外に出るweek

学外の方々や団体と実際の関わりを持つことで探究を深めることができました。

1学期の「国・府学」探究の中から現在、プロテイン商品開発、宇宙食、郷土学、スポーツ、教育・子育て、こくべじ、まちづくり・シェアハウス、大学生と交流、演劇を学ぶ、映画を学ぶ、英語・異文化理解、ファッション、公園、動物保護、カフェめぐり、アニメや映画の聖地巡礼、子ども食堂、土器でアイスを作るなど、多種多様なプロジェクトが動きはじめています。これらのプロジェクトの中から府中市役所との共同事業が始まり(コミュニティバスのラッピングコンテストやポスター募集など)その他に全国高校生のソーシャルビジネスプラン(SBP)



コンテストに出場するメンバーも現れました。今後、これらのプロジェクトが生徒のどのような「體験」となるか非常に楽しみです。

また「體験」教育は何も「総合的



高校2年本科の活動



な探究の時間」だけではありません。体育祭や学年企画での取り組みはもちろん日々の教科学習や部活動などの課外活動においても重要な目的で

す。変化の激しい時代だからこそ、真に生きる力となる「体験」教育を学年一同これからも積極的にチャレンジしていこうと思います。

総合の時間を通しての成長

高校三年本科 学年主任 一之瀬 繁

本科高2学年は、高1学年の1学期にSDGsを詳しく探究し、クラス毎に模造紙にまとめ発表する事から始めました。6月1日の学年デーではSDGsをテーマにした研修を2クラス毎に行いました。江の島でのゴミ拾いと作品作りを動画での参加ではありますが、府中環境祭りに出展いたしました。

学部の授業を高校生向きに「学問探究」という形で行っていただきました。7月には社会貢献を考えるために、明星大学ボランティアセンターの浅井センター長に「ボランティア講話」をしていただきました。おかげさまで、人数制限のあるボランティアなどは「人数制限あり・先着順」としてアナウンスが必要なほど、ボランティアに積極的な生徒が多い学年となりました。



文学部の毛利先生と学生さん方にお越しいただき、「フェアトレードワークショップ」でフェアトレードについて学ばせていただきました。100周年記念明星祭では本科高2学年企画として、「フェアトレード」に関わる物販等を企画しております。

2学期には高校生なりに困っている人を笑顔にするプロジェクト「ソーシャルチェンジ」を行いました。学年代表プロジェクトはポスターセッションという形ではありますが、府中協働まつりに参加し、学年全体でそのプロジェクトを実際に実施いたしました。3学期には明星大学人

2学期から、本格的に総合探究の時間に事前学習を始め、研修終了後に見地での検証内容をまとめ、事後学習及び最終プレゼンへと進めてまいります。見える学力の成長も期待しつつ、「真に生きる力」を目には見えない学力を総合的探究の時間で培ってもらいたいと切に願っています。

総合の時間を通しての成長

高校三年本科 学年主任 中林 孝光

3年間の学年目標を「WORLD」世界に目を向ける
With 仲間や先生たちとともに
Overcome 打ち勝つ、乗り越える
Respect 他者を尊敬する、重んじる

Learn 学校生活すべてにおいて学ぶ姿勢をもつ
Dream 夢(目標)を見つけ、追いかける



1年時のプレゼン発表の様子

と掲げ、生徒たちは100周年記念の卒業生となることを誇りに持って、学校生活を過ごしてきました。今回は明星高校が力を入れてきている「総合学習の時間」で行ってきたこ



2年時の研修旅行事前学習で地域の方とZoomで話し合いをしている様子

ろと繋がりが各地域の課題などを見つけ解決しよう」というテーマで事前学習をグループで行いました。Zoomで各地域の方々へ地元の特徴や取り組みを紹介してもらい、そこから課題を見つけ探究活動を行いました

とを紹介したいと思います。
1年生では「困っている人を助けよう」というテーマで課題発見・調査・討議・解決方法・発表といった探究活動をグループで行いました。3学期には明星大学とも連携して、大学の先生方からアドバイスをいただくことも出来ました。こういった活動により課題の見つけ方・プレゼン資料の作り方・発表の仕方などのスキルが上がっていききました。
2年生では「研修旅行先の地域の方と繋がりが各地域の課題などを見つけ解決しよう」というテーマで事前学習をグループで行いました。Zoomで各地域の方々へ地元の特徴や取り組みを紹介してもらい、そこから課題を見つけ探究活動を行いました

1年生は6月2日、多くの友達と仲良くなることを目的に、クラスを超えた班を編成して高尾山に徒歩で登る計画をしていました。しかし、当日はあいにくの大雨となっていました。トリックアート美術館や599ミュージアムに行った後、ケールカードで高尾山に登って屋根付きのホールでパーベキューをしました

MG Sの取り組み

た。研修旅行先は「宮城・岩手、和歌山・大阪、兵庫・徳島・岡山、愛媛・広島、長崎」の5方面でクラスごとに行きました。ほとんどの行程



2年時3月に府中市で行った発表・販売イベントの様子

た。食事をしてる時は、雨の音が聞こえないぐらい、みんなが賑やかにしていました。入学当初を思い起こしてみると、「友達ができない」「中学に戻りたい」という声をよく聞いていました。授業の速さや学習内容の難しさに対する不安以上に、友達が出来るかどうかが一番の心配だったようです。五月に行なわれた百周

高校MG S 学年主任 **高木 保欣**

進めています。こういった活動を通して目には見えない学力が育っていることを日々実感しています。

で民泊があり、地元の方々も繋がる事が出来たおかげで、生徒たちの視野が大きく広がりました。また、9月の明星祭、3月にも府中駅周辺で研修旅行先の特産物を販売し、実際に物を売る難しさと楽しさなどを学ぶことも出来ました。
3年生では今までに学んだ課題発見・解決の手法を利用して、個人での探究活動を「卒業研究」と題して行っています。調査をするにあたって参考にした文献などはきちんと掲載するなど、大学の卒業研究・論文や社会に出てからのプレゼン発表する時の大切な要素なども教えながら進めています。

年記念体育祭でクラスメイトと交流し、ポッチャ大会でクラスメイトとの仲が深まった後に行なわれた高尾山登山だったので、クラスを超え学年全体で仲良くなれたようです。四月以来、ほとんどの生徒たちが欠席や遅刻もほとんど無く元気に登校しており、先目行なったアンケートでも九十四パーセントの生徒が充実した高校生活を過ごしていると回答していました。学年の教員としては、嬉しいかぎりです。高尾山登山を終えてから実力テストの成績票を返却しましたが、友達と楽しい時間を過ごすだけでなく、そろそろ学習にも力を入れる必要があると感じたようです。初めての期末考査を前にして、友達と一緒に勉強している姿や友達同士で教え合う姿を多く見るようになりました。これから高校生になって初めての夏休みを迎えます。宿泊行事のグローバル探究セミナーを始め、夏期特別授業や夏期講習など、多くの行事が待ち受けています。百二十八名の生徒一人一人が、学年やクラスの仲間から多くの刺激を受け、充実した夏休みを過ごしてくれることを願っています。

2年生は6月2日、クラスの親睦を深めるとに、新しい体験を通して自分の世界観を広げることを目的として、クラスごとに学年デーを行いました。午前は、MGクラス、MSクラスでフジテレビを訪問しました。「VS魂」のセットなど普段見ている番組のセットがあり、生徒は興奮気味でした。また、「めざましテレビ」の製作体験をしました。番組スタッフの真剣な指導の下、本番と同様の機材を使い、リハーサルから本番までを生徒全員で行いました。1つの番組を作るのに様々な役割があり多くの人が関わっていることを知り、非常に貴重な体験をすることができました。後日、本番を収録したDVDがフジテレビから届き、クラスみんなで見て盛り上がりしました。S M G Sは、国会議事堂を訪問



MGS「国会にて」

しました。国会議事堂の重厚な造りから、生徒は政治の重さを感じ取っていたようでした。憲政記念館では、政治の歴史を解説していただき、また、議会体験もさせていただきました。来年に成人を迎えるにあたって選挙の意義や投票権の重さを学ぶ良い機会となりました。国会議事堂の食堂で食事をした後、生稲晃子参議院議員までお越しくださり、生徒に話をしてくださいました。午後は、MGクラスは上野公園散策をしました。国立西洋美術館や東京都美術館を訪れた生徒が多く、普段なかなか触れることがない世界に触れ、刺激を受けていました。MSクラスは日本科学未来館に行きました。AI技術や最先端医療技術等を学び、現在日本が抱えている問題や未来について考えるきっかけとなりました。S M G Sクラスは、江戸切子の製作体験をしました。その難しさに驚き、上手にできるようになるためには10年間の修業が必要ということを知りました。1日を通して各クラス、学校での授業ではなかなか学べないことを体験でき、価値観が広がる貴重な機会となりました。

3年生は6月2日、大学キャンパスツアーとして明治大学・立教大学、テーブルマナーとして雅叙園(黒)に行きました。キャンパスツアーは文系と理系に分かれ、理系生徒は明治大学(生田キャンパス)へ、文系生徒は立教大学(池袋キャンパス)へ向かい、大学の講義やキャンパスの雰囲気、学生の様子などに触れ、今後の進路決定に向けての貴重な体験ができました。特に明治大学では、大気物理研究をされている鈴木秀彦先生に南極大陸での越冬体験について講演をして頂き、生徒は非常に刺激を受けたようです。午後は場所をホテル雅叙園東京(目黒)に移し、テーブルマナー教室に参加し、パーティーに招待された際のマナーや作法を学びました。緊張の面持ちで席に着いた生徒たちでしたが、講師の方から「テーブルマナーで一番大切なことは、食事と会話を楽しむこと」という説明を受け、リラックスして臨めたようです。コロナ禍の昼食時、学校では黙食だったためか、クラスメイトと談笑しながら食事をしている姿はとて嬉しそうに見えました。普段接する機会のない人や自分からはなかなか訪れない場所に行くことは、生徒の見聞を広げるだけでなく、新たな好奇心の芽生えや行動のきっかけになるはずです。生徒一人ひとりが体験を通じた新たな発見を得られた1日となりました。